

受託団体名：(特非)あかりの街ひめじ 事業名：あかり産業による地域活性化事業

実施事業名称：特別セミナー「クリーン水素エネルギーからひめじの『あかり』へ」

事業の経緯：申請額から2分の1減額で基金助成の認定を受け、事業内容の再検討を行ったが、私たちの費用、時間、マンパワーを考慮すると地域の誇りである姫路、播磨の照明産業を紹介し地域産業の活性化を図る事業は困難と判断し、姫路商工会議所や県立大学伊藤教授に相談し、コンテポラリーな話題の「水素」をテーマにセミナーを開催することとした。

事業の概要：日時：令和6年11月8日(金)午後5時～午後7時

場所：姫路駅前「じばさんビル」501号室

セミナー講師と演題(発言順)

兵庫県企画部総合政策課 平井克尚氏「水素社会の実現に向けた取組」

国立明石工業高等専門学校 田中誠一氏「水素エネルギー貯蔵方法の研究開発」

阪神機器株式会社 黄勝義氏「燃料電池発電システムによる電源ソリューション提案の取組み」

株式会社エムテック(当法人理事) 松岡智巳氏「夜間景観での光による街づくり」

事業の内容とその様子(講演の要旨)

平井氏は、燃やしてもCO₂を出さないクリーンな水素の供給、利活用で、兵庫県は優れた立地であり、県としても5本柱の政策(1,水素サプライチェーンの構築。2,水素エネルギーの地産地消。3,水素関連産業の振興。4,水素モビリティの普及促進。5,機運の醸成)を積極的に推進し、水素社会の実現を目指す等と説明された。

田中氏からは、常温の水素は、エネルギー密度が低く利活用が難しい。水素をいかに安全に、高密度に、効率的に供給するかは大きな課題。その解決策を探る研究に取り組んでいると報告された。

黄氏からは、水素活用の勉強会に参加し、切磋琢磨している。水素燃料電池発電システムのプロトタイプを完成させたが、中小企業でも勝機(商機)はあると考えている。さらに小型の燃料電池の開発に取り組み、商品化から販売促進に努めていると話された。

松岡氏からは、あかりのイベントは、大きな集客力が期待できる他、照明環境の整備によって街の雰囲気は変わる、あかりは街づくりの重要な素材と考えている。その上で自社の事例を中心にいくつか紹介された。またあかりを使う屋外イベントでの電源は、多くの場合、固定電源では不足することが多く、補助電源を使用するが、環境負荷の低減という要請から従来の発電機の使用は困難になりつつあり、黄氏の商品には、大いに関心があるとの感想を述べた。

その後の質疑応答では、水素の取り扱い等について問われた。

広報について

11月19日の神戸新聞姫路版に掲載されました。



以上